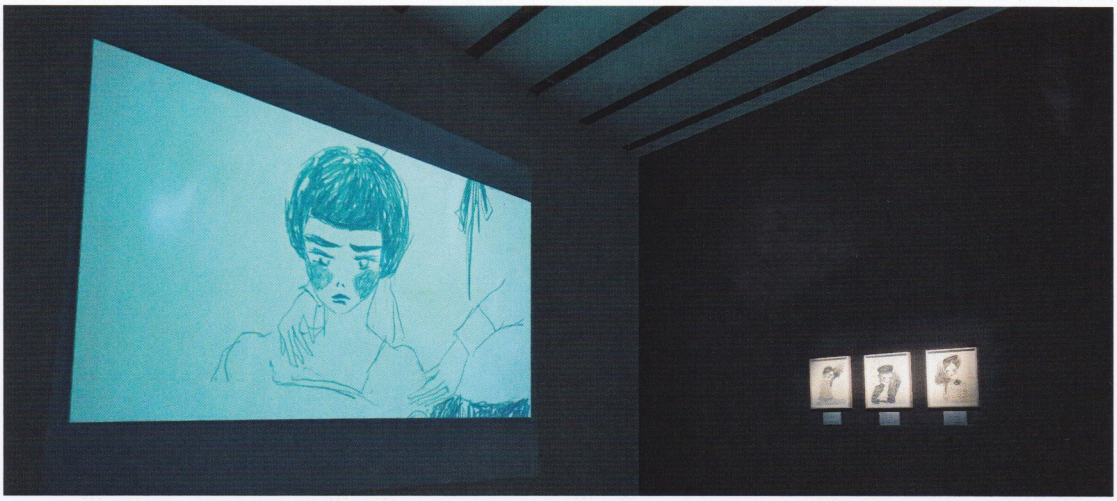
事故・放射線障害 Accident, Radition Hazards

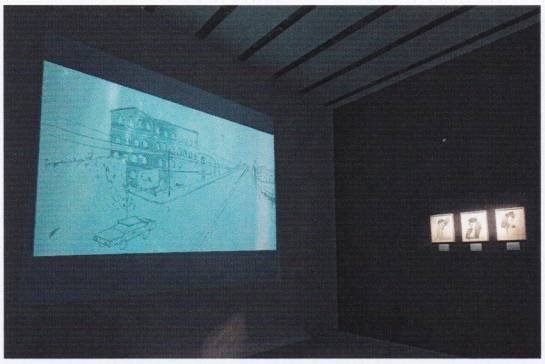
小林エリカ
Erika Kobayashi

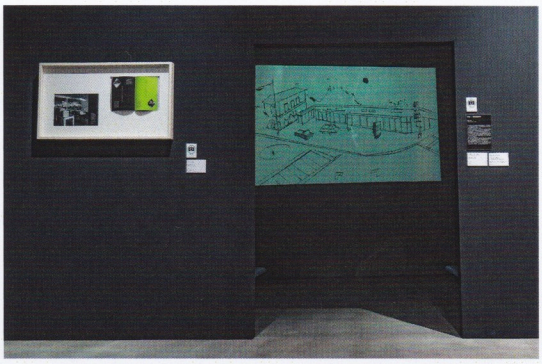
Project UNDARK
（Phew + Erika Kobayashi）Music By - Dieter Moebius

光の子ども　LUMINOUS

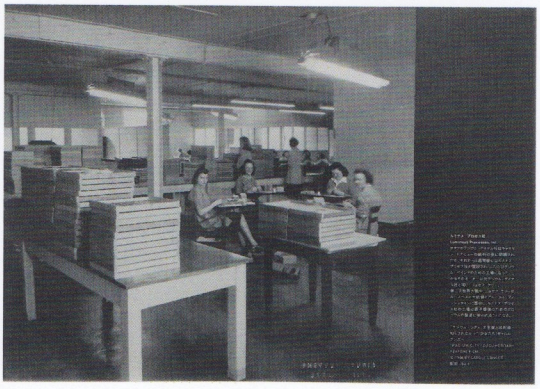
Radium Girls 2011







映像と絵画による
インスタレーション作品



《光の子ども》《ラジウム・ガールズ 2011》

ラジウムはキュリー夫人によって発見された放射性元素である。戦前にはラジウムが蛍光を放つ性質を利用して様々な商品が作られた。時計の文字盤は、中でも多く利用された分野で、いくつかの腕時計会社がラジウム塗料を時計の文字盤に塗ったものを売り出した。

アメリカのニュージャージー州オレンジの米国ラジウム社やイリノイ州のラジウム・ダイヤル・カンパニーなどではこの作業のために多くの女性が採用された。彼女たちはラジウム塗料がついた筆をなめて塗るよう指示され、体には影響がないという会社の説明を信じて、ラジウムを直接体に取り込む結果となった。ラジウムの粉は身体にも付着し、彼女たちの体は暗い場所では発光したという。

実際には会社は危険性を認識していたが、そのことは伏せられており、そのうちに放射線障害により体調を悪化し死に至る人や重篤な症状となる人が現れた。

彼女たちは会社を相手に訴訟を起こしたが、当初は認められず、他の病気のせいだとされ、その間にも亡くなってしまったり、動けなくなってしまう人達が現れた。

最終的にはラジウム塗料の発明者自身も放射線障害で死亡するという事態が発生し、彼女たちの訴えが認められ、安全に関する法律が制定されるきっかけとなった。

腕時計の作業をして被ばくした女性たちはラジウム・ガールズと呼ばれ、安全な職場環境のために戦ったことが称えられている。

小林エリカは“放射能”の歴史をたどる作品を一貫して制作しており、本作もその中で重要なポジションを占めている。作品は『光の子ども』というコミックと、『ラジウム・ガールズ２０１１』という音楽と映像作品から成り立つ。映像作品は小林の絵、PHEWの語り、Dieter Moebiusの音楽で構成されている。

軽井沢ニューアートミュージアム
開館10周年記念特別展

さまざまな人生
生と死、よろこびと悲しみ
ガイドブック

Various Lives
— Life and Death, Joy and Sorrow
GuideBook

KARUIZAWA
NEW ART MUSEUM
Whitestone Art Foundation

「さまざまな人生 生と死 よろこびと悲しみ」 ガイドブック

2022 年 7 月 16 日(土)～2022 年 10 月 30 日(日)